

オアシスの森くらぶ

ニュースレター19号 2003. 9. 27発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人 永田 修二
編集人 近藤 眞史
編集長 五十川 幸夫

5月定例活動「相生山緑地、森の探検隊」

小池 敦夫

都市計画緑地である相生山緑地は計画面積123.4ha、その内北側のおよそ20haが我々のフィールドとなっている"オアシスの森"です。

5月24日(土)、今日は普段歩き慣れているオアシスの森を離れて、南側に広がる相生山緑地全体を探検しました。講師は森林公園や日進などで自然観察を指導している鬼頭弘さん。歩き回っている途中、センダンの花を始め、ガマズミやイボタノキ、スイカズラからクロミノニシゴリの花までいろいろの木が花を咲かせていた。また、足元に目を向ければ、ムラサキカタバミの鮮やかな花からコ克蘭も見つけました。

そして、チョウヤクモの観察をしつつ、緑地内に点在する「葉書記念塔」や「白滝池(残念ながら今は水が抜かれている)」から「相生山観音」といった文化財まで、ぐるっと一周。

踏み分け道をつたいながら広い緑地内を歩き回り、オアシスの森とはまた違った良さとこの緑地の広大さなど新たな魅力をいくつも発見しました。

湧き水の源泉を見つけて
喜び隊員(?)たち



リコー中部 グリーンプロモーション助成対象 に選定されました！！

リコー中部(株)では社会貢献プログラムとして、2002年度より地域環境活動助成「グリーンプロモーション」を進めています。今年度はこの助成に中部地方7県の活動団体から、53件の応募がありましたが、我が「オアシスの森くらぶ」が見事助成対象の5団体に選定されました。

森くらぶからは、活動テーマを「人と自然・共生体感の森づくりプロジェクト」と題し、9月と10月の「竹林整備」、来年1月の「ツツジの園づくり」、同じく2月の「アカマツ林の再生」の4つの定例活動を対象として応募しました。2年目となる今回は、「リコー製品を利用する顧客や社員などへの広がりが期待できること」を選考基準の一つとして明確に打ち出されたそうです。

助成金授与式で記念撮影
(天白生涯学習C・美術室にて)



ホームページに掲載されている審査講評によると「都市生活者に自然との共生関係を学べる機会を提供し、森と関わる市民の発掘・交流、そして森を暮らしに活かすライフスタイルの普及に繋がること」が高く評価されたようです。

リコーでは、顧客や社員が投票というかたちで助成テーマの選考に参加する、あるいは助成テーマが行われる地域の社員が活動に参加することによって、顧客・社員が環境問題

や地域の活動に関心をもつ一つの機会にしていきたいと考えているそうです。20万円の助成金は、野外講義用メガホンやクマデ・オノなどの機材や印刷費・通信費・会場費等の事務経費に有効に活用していきたいと考えています。企業とのパートナーシップ事業といえるこの助成を契機に、5年間の活動で培った森くらぶのチームワークと里山保全のノウハウを活かし、また新しいオアシスの森の仲間を迎えたいと思います。(眞弓)